

知っておきたい 診療技術

歯科口腔外科の新しい治療

「ザイゴマインプラント」

虫歯や歯周病、事故など様々な理由により抜けてしまった歯を補う治療の一つに、インプラントがあります。

インプラントは、失った歯の本数に応じて歯根（歯の根）に代わるネジ（インプラント体）

を顎の骨に埋め込み、その上に人工歯を取り付ける治療です。顎の骨に埋め込むため、厚みが不足している場合は人工骨などで骨を増やす必要があります。治療期間は3ヶ月から6ヶ月、長い方では2年以上になることもあります。

今回は、複数の歯が抜けた多数歯欠損の方が、骨を増やすことなく使用できる特殊なインプラントを紹介します。「ザイゴマインプラント」といい、顎の骨よりも硬いザイゴマ（頬の骨）

	インプラント	ザイゴマインプラント
		
		©Nobel Biocare
対象	 - 顎の骨がしっかりしている（必要に応じて骨移植や骨造成を行う場合もあり） 1本～複数本の上下の歯を失っている	 - 重度の上顎骨不足 - 多くの歯を失っている - 歯周病などで顎の骨が溶けている - 腫瘍などの治療で上顎骨の一部切除、欠損がある
治療期間	比較的長い	比較的短い
固定部位	顎の骨	頬の骨
長さ (インプラント体)	8～15mm	30～50mm

インプラントとザイゴマインプラントの比較

へ長いインプラント体（上図矢印）を固定し、上顎の歯を支える治療です。骨を増やす必要がないため、治療期間を大幅に短縮することができます。

術前検査



手術前には、CT検査で頬骨の厚みや位置関係などを詳細に確認します。インプラント体の埋入位置・角度・長さ、固定する頬骨の大きさを三次元的に確認し、手術計画を立てます。

手術



手術は静脈内鎮静（点滴による麻酔）または全身麻酔で行い、頑丈な頬骨にインプラント体を固定します。基本的に即時荷重（早期に仮歯を装着すること）しますが、仮歯を装着するかどうかの判断は、歯がどのような状態で失われているかを評価し慎重に行います。

術後のリスクとケア



ザイゴマインプラントには、副鼻腔関連の合併症など特有のリスクがあるため、術後のフォローが重要です。その他に、通

常のインプラントと同様に内出血や腫れ、インプラント周囲炎、人工歯の破損・ゆるみ、セルフケア不足による長期管理の難しさなどのリスクが挙げられます。人工歯は術後に歯磨きを簡単に行えるよう設計し、セルフケア指導に加えて定期的なメンテナンスも行います。

なお、ザイゴマインプラントが10年後も機能している割合は約95%とされています。これは、人工骨などで骨を増やした通常のインプラントと比べても、同程度です。

最後に



ザイゴマインプラントは専門性が高い治療のため、長野県内で実施している医療機関は限られています。

治療について詳しく知りたい方は、当院歯科口腔外科までお問い合わせください。

（歯科口腔外科部長 小笠原邦茂）

